

# 名古屋市SDGs推進プラットフォーム発信会（第1回）開催報告

令和4年9月12日、オンライン形式（Zoomによる視聴）にて名古屋市SDGs推進プラットフォームの第1回発信会が開催されました。会員自らが発信者となり、自身のSDGsの取組みや連携事例を共有しました。プラットフォーム会員の43名に参加（視聴）していただき、参加された会員の方々は、SDGsの達成に向けて多くのヒントや学びを得られたようです。

## ●主催者挨拶 北村 剛士／名古屋市総務局企画部 主幹

本発信会はプラットフォーム会員の皆様がSDGsの取組み、成果、連携事例を発表したり、連携相手を求めているという呼びかけをしていただくための場である。今回の発信者は企業とNPO法人であり、業界や業種もさまざまである。業界や業種が異なると発表内容がそのまま自団体に当てはまらないこともあると思うが、SDGsの理念は世界共通だと言えるので、参加者にとっては何か参考になる視点等があるのではないかと。そうした心持ちで最後まで視聴していただくことを願います。

## ●花王グループのSDGsの取組み紹介 野口 高弘 様／花王グループカスタマーマーケティング株式会社

### ◆花王グループのSDGs

花王のESG戦略 Kirei Lifestyle Planを通して貢献するSDGs目標を掲げている。環境に配慮した取組みとしては、①原材料の調達から廃棄まで、製品のライフサイクル全体で環境負荷低減、②ステークホルダーと一緒に取組むことを重視している。また、生活者・社会に配慮した取組みとしては、①全てのお客様にとって分かりやすく使いやすい製品をお届け、②商品を提供するだけでなく清潔で美しく健やかな習慣を浸透させていく啓発活動、③受容性と多様性のある職場/社員の健康増進と安全の配慮に力を入れている。



花王グループカスタマーマーケティング(株) 社会コミュニケーション部門 野口 高弘 氏

### ◆プラスチック包装容器削減の取組み

SDGsの達成に向けてさまざまな活動をしているが、今回はプラスチックごみ問題をピックアップして紹介する。人類がこれまで生産したプラスチックの総量は80億トンと言われており、世界中の海にはすでに1.5億トンにのぼるプラスチックが投棄され、年間800万トンのペースで増加している。こうした状況を踏まえ、当社は2018年にプラスチック包装容器宣言をし、リデュース、リユース、リプレイス、リサイクルの4Rを推進している。資源循環社会に向けて原材料の調達から製品の廃棄処理まで、商品のライフサイクル全体で環境負荷の低減を進めている。リデュースイノベーションの具体例としては、製品（液状洗剤）のコンパクト化（濃縮化）や詰替え、つけかえ製品を全製品の84%（2018年実績）に導入している。また、発想を転換し、詰替えパウチに直接ホルダーを付けたり、詰替えパウチを吊り下げて使用することで容器は不要となり、プラスチック量の削減に貢献している。さらに製品改良により詰替えパウチそのものが容器になれば、プラスチック使用量は減らせるのではないかと考え、研究開発に取り組んでいる。

リサイクルイノベーションについては、フィルム容器リサイクルの社会実装化を目指して研究開発に取り組んでいる。現在では、フィルム容器から子どもの遊ぶブロックへ変化させることは可能となっており、当社の休憩室には本ブロックを使って試験的に製作した椅子が設置されている。また、廃ペットボトルを活用したアスファルト改質剤を開発した。これは回収したペットボトルをフレーク・ペレット化し、化学処理を行い、アスファルト改質剤中に原料として使用することで舗装の耐久性が向上するというものである。すでに道路やコンビニ、ドラッグストアの店舗駐車場等で使用されている。

### ◆生活者へのお役立ち情報の提供

2021年1月、グループの強みを活かし、多くの生活者に“キレイ”をお届けするために「社会コミュニケーション部門」を新設した。講座やイベントなどを通じて、生活者に清潔・美・健康分野での花王の知見やお役立ち情報を伝達している。啓発講座は幼保への衛生啓発、身だしなみメイク、プラゴミ講座、お洗濯・おそうじ講座など35の講座コンテンツ（近い将来、50講座へ増やす予定）を提供している。その他、行政などのイベントへの出展や花王国際子ども環境絵画展示などのイベント活動や行政・教育機関との連携にも取り組んでいる。これまで（2021年6月～2022年5月）の実績は、74,832人の方に啓発をさせていただいた。

### ◆プラットフォーム会員との連携

当プラットフォーム会員の皆様とも連携を進めており、名古屋市立大学様とは「就活生応援身だしなみセミナー」の開講が決定している。また、長田広告(株)様（こどもSDGsスクール様）とは小・中学生の親子に参加していただき、プラスチックごみ環境講座とワークショップを開催した。一般社団法人グローバル愛知様とは大学等に在籍の留学生に向けた就職活動や身だしなみ講座等の取組みに協力していくことで話を進めている。

世界は今、環境や社会において様々な課題に直面している。そうした様々な課題に立ち向かう国際社会の共通言語としてSDGsが策定された。SDGsは全てのステークホルダーの参加を促しており、特に企業に対する期待は高い。企業はSDGsに取組むことで様々なメリットを得ることができるし、取組まないことは将来的なリスクにつながる懸念がある。The power is in you. you have the power to change.（変革の主体はあなた。）という言葉を実践できるようSDGs推進に向けて取組む方々と一緒にやっていきたいと思っているので、お声がけいただけると幸いです。

### ▶名古屋市SDGs推進プラットフォームウェブサイトにてリクエストシートを公開中

詳細は、下記URLをご参照ください。

<https://sdgs-pf.city.nagoya.jp/resource/matching/seeds%20-%2020041.pdf>

### ◆SDGs取組みの歴史

1958年創業、社員30人の印刷会社である。当社のSDGsの取組みは、2002年にISO14001（環境）を取得した頃から始まった。その後、GPマークやFSC認証、カーボンオフセットなどの認証を取得し、ノーカーボンプリントを達成している。SDGsの概念が広がる前から環境保全活動を行ってきたので、これまで取組んできた事に対して後からSDGsの活動だと言われるようになった印象である。



(株)マルワ 鳥原 裕史 氏

### ◆環境に配慮したSDGsの取組み

環境に配慮したSDGsの取組みとして、ザンビア産バナナペーパーの採用がある。バナナペーパーは、今までは廃棄されていたバナナの茎から取った「バナナ繊維」を原料とし、古紙や森林認証パルプを加えて作られた「フェアトレード」の紙である。

バナナペーパーは岐阜の障がい者施設で栽培している「せいすい信長バナナ」の茎を原料とした「吉報紙」も扱っている。美濃和紙の製紙メーカーで製造されたものを当社で仕入れ、使うことで地産地消の一翼を担っている。

仕入れたバナナペーパーは、うちわ、カレンダー、メモ帳などの販促品に加工して販売している。バナナペーパーで製作しているカレンダーの絵柄は愛知県立芸術大学の学生に描いてもらっている。学生の描いた絵が世の中に出ることが少ないので、当社の商品に採用させていただくことで学生の作品が多くの方の目に触れる機会を創出している。

印刷会社では、「ワンプ」という紙を包むクラフト紙が廃材として発生するのだが、表面に撥水加工がされており、リサイクルしにくい素材となっている。その「ワンプ」を材料として紙袋や封筒に作り変えるという事業を障がい者施設とパートナーシップを結び、行っている。本取組みは廃材を商材へアップサイクルするというSDGsらしい取組みであるが、障がいのある方へ仕事を依頼するという点でも大きな意味を感じている。



### ◆情報分野のSDGsの取組み

視覚に不自由を抱える方は多数存在し、伝える相手によっては健常者と異なる状況がある。そこで当社はメディア・ユニバーサルデザインの普及活動に力を入れている。例えば、愛知県が作成した「視覚情報のユニバーサルデザインガイドブック」の監修を行った。また、学生とのコラボレーションで「見えにくい」カレンダーをどうすれば誰にでも見やすく、分かりやすくなるかという啓発教材を作成した。その他、避難所設営シールセットという商品を販売している。誰にでも分かりやすい色使いやデザインを施しており、2018年に発生した大阪北部地震でも使用され、多くの企業で採用されている。

### ◆働きがいのSDGs

当社は社員の半数が女性である。女性が活躍できる環境を作っていくのと同時に、その取組みに合致した認証の取得を進めている。認証を見て求人に応募したという学生もいらっしゃるの、外部からの信頼を得るためには第三者による認証を取得し、発信していくことが重要だと考えている。



また、会社のショールーム化に努めている。多くの方々に会社見学をしていただいております。コロナ禍前には年間約300人が訪れていた。印刷工程や仕事内容を知ってもらうということもあるが、製造現場は普段はお客様と直に接する機会がない部署なので、見学者に訪ねていただくことで社員のモチベーションアップにもつながっている。

また、「社名を知らないのは会社がないのと同じ」という考えのもと、会社の情報発信に努めている。SDGsレポートを年1回発行し、ステークホルダーの皆さまにお届けしている。また、会社の活動等をまとめ、年4回広報誌として発行している。広報誌の発行は25年間続けている。最近ではYouTubeも始め、あらゆる発信が当社のサービスになり得ると考えている。

当社は社員同士のコミュニケーションづくりを大事にしており、月1回の会議においてはワークショップをよく行っている。議題はさまざまだが、重

要事項を決定する際にはワークショップという手法を用いることが多い。多部署の人間が一緒になって議論をするので、とても良いコミュニケーションの場になっている。こうした活動がお客様に伝わり、お客様から「うちの会社でもワークショップをやってほしい」という依頼をいただくようになった。ワークショップの手法を用いた研修として社外へ展開させていただく際に当初は社長が講師を務めていたが、最近では社員が講師を務められるようになっており、社員も自信を深めている。ワークショップのノウハウをお客様に提供できるようになり、会社としても商材の幅が広がっている。

### ◆SDGsの関わりで中小企業らしい独自の価値を提供

当社では会社の前にある公園を月1回10年以上清掃している。公園の清掃活動に象徴されるような、やれる事をコツコツとしっかり継続していくことが大切だと思っている。

### ◆事業の実績

障がいの有無に関係なく多様な人々が「より豊かに生きられる社会を創造する」をビジョンに活動するNPOで、障がいのある子どもが利用する福祉施設を8箇所運営している。

事業運営の中で培ったノウハウをもとに、障がいのある中高生向けのお仕事体験事業を2021年秋より開始した。これまでにカフェ店員やモデル、カメラマンなど15回のお仕事体験を行っており、延べ150名の参加者があった。今回、プラットフォーム会員の皆様へ呼びかけたいのは、障がいのある子ども達に体験できるお仕事を提供いただける企業様の募集である。



NPO法人 障がい者みらい創造センター  
理事 八頭司 裕輔 氏

### ◆障がいのある子ども達のお仕事体験

障がいのある子ども達が参加できるお仕事体験が大変少ないという現実がある。

例えば、子どもが仕事を体験できるテーマパークがあるが、そこに障がいのある子どもが訪れた時に仕事について学ぶことができるかと言えば、答えはNoである。なぜなら、そうしたテーマパークは健全な子ども向けにお仕事体験のプログラム等が作られているため、障がいのある子どもにとっては分からないことや理解できないことが多いのである。当法人は障害の有無に関わらず、誰にとっても分かりやすい仕事を体験できる場所があるべきだという想いから「お仕事体験Werinbow」という事業を行っている。

### ◆障がいのある人の就労

現在、日本で障がいのある人は、960万人程度だと言われている。そのうち、労働が可能とされている377万人の中で実際に働いているのは 14%にすぎない（出典：令和元年障害者白書 内閣府、平成30年障害者の就労支援対策の状況 厚生労働省）。こうしたデータから、障がいのある方が就労しづらい状況や働く力があるにもかかわらず福祉施設を利用せざるを得ない人々も存在することが考えられる。このような状況の要因として、以下の2つが考えられる。

- ①社会環境の側が多様な人材を活かせていない。
- ②障がいのある子どもが子ども期に社会との接点を十分に得られていない。

当事業は特に上記②の解決を目指して実施している。障がいのある子ども達が幼少期に「世の中にはこういう仕事があるのだ」という事を知り、「こういうふうに学んでいくと、こういう仕事に就けるのだ」ということを健全な子どもと一緒に学べる場所にしていきたい。

また、できる限り実際の仕事に近い状態で体験することによって「楽しかった」だけで終わるのではなく、「大変な仕事だった」、「自分には合っていなかった」等、さまざまな感情を抱きながらも自分の得意・不得意を知り、自分自身の能力に気づくことも大事な経験だと思っている。

### ◆当法人が提供できること

各企業様の業務内容に合わせたお仕事体験の企画案を作成することができる。作成に当たっては、当法人の福祉資格を保有する専門職スタッフはもちろん、当事業に参画している大学生や、社会人プロボノの意見を取り入れながら、協力企業様と内容を調整していく。実施に当たっては、障がいのある子ども達の募集をはじめ、当日スタッフ（必要な場合）の手配なども当法人にて対応可能である。

### ◆障がいに関する知識の向上

はじめて連携させていただく企業様の場合、「障がい者を雇用したことがない」、「障がいについてわからない」という声を聞くこともある。そうした企業様には研修資料を用意している。また、障がいのある子ども達の困難さを正しく理解することや対応の仕方をまとめた資料も作成している。提携していただける企業様には資料も使って、障がいというものを伝えていきながら、どのようなお仕事を体験させてあげれば、子ども達にとって学びになるのかを一緒に考え、企画を作っていきたい。本事業を通して、障がいのある方にどう関わればよいのか、また障がい者を雇用する際に気をつけるポイント等を実際を通して感じていただければ幸いです。

#### PROJECT REPORT

##### プロジェクト目標

障がいがある中高生が安心して学び体験できる お仕事体験の機会をつくる

(基本的なプログラム内容)	内容	時間
<p>特設1 初会</p>	<p>● お仕事のリアルを動画形式で学びます</p> <p>● 仕事の楽しさや魅力はもちろんですが、難しいことや大変なことなども伝えています</p> <p>● カフェやイベント物は、障がいがあったとしても参加ができるように、こちらでも存心のフォローをします</p>	20分
<p>特設2 体験</p>	<p>● 実際に体験したい職種・職種には、実際に向けて必要な知識や技術の習得のために、実際に近い体験をします</p> <p>例) カフェ店員：ホランシアアに付いた講習を受ける モデル：衣装に着替え、担当スタッフが撮影 動画クリエイター：オリジナル動画の制作、企業様へメールで送信、SNSに投稿</p>	40分
<p>特設3 リアルな実践</p>	<p>● 課題の達成を実践し定着。可能な限り実際の仕事に近い状態で行うことで、自分の能力に気づくことができるように、自分の得意・不得意を知り、仕事の進捗感を増やしていきます。（事前に振り返りも実施）</p>	40分

基本的なプログラム内容

#### PROJECT REPORT (2021)

**実施内容**

実施日時：2021年9月4日、18日、10月2日、11月4日  
参加者：0~40名の障がいのある中学生・高校生  
実施場所：Cafe magnet (名古屋市瑞穂区)  
実施詳細：①magnet店員の方の講話  
②衛生管理について  
③グループ別に、障害・健康の体験実習  
各職種シートをもとにワーク

**成果や改善点について**

【成果】  
● プログラムの基本面が完成  
● 調理、接客など営業中のカフェでリアルな体験ができた

【改善点】  
● 提携企業との事前調整の重要性  
● 障がい特性への配慮をより丁寧に

2021年度に実施したお仕事体験の様子

### ▶名古屋市SDGs推進プラットフォームウェブサイトにてリクエストシートを公開中

詳細は、下記URLをご参照ください。

<https://sdgs-pf.city.nagoya.jp/resource/matching/needs%20-%2020263.pdf>

### 【参加者（視聴者）の感想】

- ・いずれの発表内容も組織全体で取り組まれている点で、当社も社内浸透が必要であると感じた。
- ・大企業から中小企業まで様々な立場からのアプローチを勉強させていただいて大変参考になった。
- ・各企業がボランティアではなく、自身のビジネスを応用して社会貢献をしている例を見られたことが参考になった。